

福島ロータリークラブ会報



持続可能なインパクトを生み出そう

http://www.f-rotary.com/



[ホームページ]



[Facebook]

2026年

9月10日(木)

vol. 09

■例会場／福島市野田町1丁目10-41 エルティ ■例会日／木曜日12:30
 ■事務所／福島市万世町2-5 福島銀行本店9F ■TEL.024-536-1010 FAX.024-536-1011
 ■mai / f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

本日のプログラム

- 新会員スピーチ NHK福島放送局 局長 沖田 昭 会員
 ■会員スピーチ みずほ証券福島支店 支店長 佐藤 有 会員

会長あいさつ



2026-27 年度会長 横山 淳

皆さん、こんにちは、本日もお集まり有難うございます。今日はNHK沖田会員の
新会員スピーチと活躍する支店長シリーズ第2弾、みずほ証券佐藤会員にお話をお願いしています。本日は世界共通のテーマ「基本的教育と識字率向上月間」について私の思うところをお話ししようと思います。

これは、教育と読み書きの能力こそが、貧困を根絶し、地域社会を発展させ、平和な世界を実現するための最も強力な武器となる、というメッセージだと思っています。

9月のロータリーの特別月間が「基本的教育と識字率向上月間」になったのは、早くから毎年9月8日はユネスコが定める「国際識字デー」とし、世界中で識字率向上と教育支援に向けた啓発活動を行っていることから来たと思います。

私たちは今更「基本的教育、識字率」と言われてもピンとこないと思います。それは私たちが大変恵まれてきたからです。日本は義務教育の普及が早く現在日本、北米、ヨーロッパは識字率ほぼ100%です。識字率とは15歳以上の人口のうち基本的な読み書きができる人の割合を言います。しかし世界の識字率は86%で、7億人以上の男女が読み書きのスキルを持っていません。

文字の読み書きができないことは、貧困からの脱却、健康の維持、投票など社会参画などに直接的に影響が出ます。薬の用法や危険を知らせる注意書きなど身を守るためには読み書き能力が必要です。また、過去エイズの感染がアフリカ南部で進んだのも無知・教育不足が大きく影響したと思います。まさに識字率の低い地域です。

ロータリークラブはロータリー財団のグローバル補助金や地域奉仕を通じて、教育格差の解消に努めてきています、学校建設や教員研修、図書への寄贈などで。

また福島ロータリークラブでもフィリピンのマリキナロータリークラブと連携し、現地の小学校の設備支援や、福島刑務所に本を寄贈し受刑者の学習教育・社会復帰の一助となっていると思います。

ただし、日本の識字率の算定はあくまで日本国民をベースに推計されているため、インバウンド、日本で働く在留外国人の増加している今、日本でも新たな問題が生ずる可能性があると思います。また、現代においてはデジタル社会を生き抜くための「デジタル・リテラシー」も重要なテーマとなることを思いつつ本日の会長あいさつとさせていただきます。

例会次第

- ロータリー・ソング「我らの生業」
ソングリーダー 大槻美恵子 会員



大槻美恵子 会員

- お客様並びに来訪ロータリアン紹介
相良元章 SAA



古俣 猛 会員

- 各委員会報告
地区会員増強委員会より
RI2530地区会員増強委員会委員
古俣 猛 会員
例会小委員会 ニコニコBOX 担当
高橋 淳一 委員
公共イメージ委員会「友9月号」紹介
浪木克文 委員



高橋 淳一 委員



浪木克文 委員

幹事報告

- 本日、例会終了後「社会奉仕小委員会」を開催いたします。委員の皆さまは、よろしくお願い申し上げます。
- 9/17(木)11時30分より「スポGOMI大会inふくしま」事前打ち合わせ会を行います。現在136チーム588名の競技者がエントリーされております。運営含め620名以上の方が集まる大会となりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。
- 11/21(土)東京市ヶ谷の日本棋院本院で囲碁好きのロータリアンを集まり「第24回ロータリー全国囲碁大会」が開催されます。ご興味がある方は事務局までお問い合わせください。
- 2027年バルセロナ国際大会の登録が9/17より開始となります。登録開始に先立ち、9/17～21の5日間は特別登録料US\$595でご登録いただけますので、ご案内申し上げます。
- 9月ロータリーレートは1ドル160円となりますのでお知らせいたします。



藤井 守 幹事

本日のプログラム

新会員スピーチ



NHK 福島放送局 局長

沖田 昭 会員

今年7月に渡辺健寿会員のご推挙により、歴史と伝統のある福島ロータリークラブに入会しました。入会してまだ2か月足らずですので、本日は少しお時間をいただき、私のこれまでの歩みなどをご紹介します、人となりを知っていただければと思います。

私は平成4年(1992年)にNHKに入局し、主にスポーツ番組や報道番組のディレクターとしてキャリアを積んできました。スポーツ番組では日曜日の夜に、40年以上に渡って放送している『サンデースポーツ』を始め、数々のスポーツドキュメンタリーを制作してきました。Jリーグが誕生した時は、そこに賭ける男たちの物語。野茂英雄投手が海を渡った時はその挑戦の記録。平成の大横綱・貴乃花が引退した時にはロングインタビューを敢行し、その勝負師としての神髄を描きました。東北ゆかりでは楽天が誕生した年、野球人生の崖っぷちに立つベテラン選手たちにもスポットをあてました。年齢や性別関係なく、トップアスリートの生き様や人生哲学に触れられたことは、自分にとってこの上なく貴重な体験だったと思います。逆に地方局勤務の時代には様々な分野の番組を経験しました。『ゆく年くる年』や『のど自慢』。長崎局の時代には原爆や核に関する番組も制作しました。就職するまで東京以外で暮らしたことがなかった自分にとって、農家や漁師、被ばく者の方々など地域で暮らす人々のお話を聞くことはとても勉強になりましたし、視野が広がったように感じます。

さて、ここで私のことをもう少しディープに知っていただくために、時計の針を大きく巻き戻してみたいと思います。私は昭和43年(1968年)11月13日に東京の一番南、大田区の大森で生まれました。産まれた時はへその緒が首に巻き付き、しばらく保育器の中で過ごしたそうで、両親や周囲を大いに心配させたそうです。そのせいなのか子どものころは、体育の授業でかぶる紅白のひも付き帽子が嫌いでした。のどの近くにゴムひもが掛かる感覚がとても苦手だったことを記憶しています。

最初に住んだのは車が激しく往来する幹線道路・環状7号線の真ん前。子どもにとっては安全とは言えず、空気も悪い場所でしたが、事故に遭うこともなく、むしろ車に注意することがおのずと刷り込まれた幼少期でした。次に住んだのは同じ大田区内の住宅地でしたが、家の前の道はそれまでと違って変わってまだ未舗装の砂利道。水はけが悪く、雨が降るとすぐに水浸しになってしまい、歩くのに難儀しました。

すくすく育っていく中、ある日突然大きな出会いがやってきました。小学校3年生くらいだったと思います。会社から帰宅した父親がおもむるに1冊の本を差し出しました。それは手塚治虫の『ジャングル大帝』というマンガで

した。父から直接本をもらう経験はその時が初めて。嬉しさもあり、むさぼるように読み進めました。そしてそのワクワクするようなストーリーテリングにはまり、気が付けば手塚作品のとりこになっていました。

その後も数々の手塚作品に触れ、中学生、高校生と成長していく自分のそばには、常に手塚治虫のマンガがあったように思います。手塚作品の魅力をひと言で言うと、私は「夢」と「ロマン」だと感じています。そのような気持ちを私の心に育んでくれた数々の手塚作品。私という人間を作り上げた重要な要素であることは間違いありません。ちなみに手塚作品の中でも大好きなものの1つが『アドルフに告ぐ』です。残年ながら高校時代のクラスメートに貸したまま、40年それっきりです。「きっと返ってくる」。壮大な「夢」と「ロマン」を信じて、今に至るまで新しいものは購入していません。

さて手塚作品でそれなりにピュアな青年へと育つはずでしたが、高校生の頃だったでしょうか、今度は別のマンガとの出会いが私に衝撃を与えます。父親が何故か家の倉庫にしまい込んでいた、古い月刊漫画誌『ガロ』を発掘。そこに掲載されていた白土三平の『カムイ伝』にのめりこみます。手塚治虫とは正反対の画風・作風は、まさにアンチテーゼと呼べるものでした。リアリズムに徹した描写に加え、「反権力」や「階級闘争」といった、ちょっと大人の世界を垣間見る感じに没頭。時を忘れて、繰り返し何度も読み直しました。おかげ様で大学受験に失敗。1年間予備校通いの浪人生となったのも、自分を見つめなおす良い機会になったと今も思っています。

手塚治虫と白土三平。自我が確立していく時期に、相反する2人の巨匠に傾倒し、その作品に没入したことで、自分の中に多様な世界観が構築されたように感じられました。ひょっとするとジャーナリズムに関心を持った根っこには、こうした経験が影響しているかもしれません。ちなみに白土三平作品で一番好きなのは、『忍者武芸帳』という作品なのですが、こちらもかつての仕事仲間に貸したきり、今も返ってきていません。

本日スピーチする機会をいただき、改めて自分の人生を振り返ると、人は“推し”に“沼って”育つものだということが良く分かりました。“推し”がいることで人生が豊かになり、日々の生活が楽しくなります。そして福島に来て私にも新たな“推し”が誕生しました。最後にそちらを紹介して結びとしたいと思います。

福島での私の“推し”は、20歳の新十両・丹治関です。福島市出身で若元春、若隆景と同じ荒汐部屋。子どもの頃には、大波三兄弟の父・政志さんの手ほどきも受けたそうです。身長185cm、体重149kgの恵まれた体格。新体操の経験もあり、足腰の柔らかさも魅力です。数年後には三役も狙えるのではないかと期待しています。まずは初日が迫る秋場所。初めての経験となる15日間の場所を、ケガなく乗り切ってほしいと思います。

本日はご清聴誠に有難うございました。



みずほ証券福島支店
支店長

佐藤 有 会 員

本日は、「今、必要な金融経済教育と、社会人が学ぶ必要性」についてお話しさせていただきます。本日ご出席の皆さまは、社長やオーナー経営者、あるいは開業医として日頃から経営や資産管理に携わっておられますので、金融や資産形成の重要性については釈迦に説法かもしれません。むしろ、本日はご自身ではなく、配下の社員の皆さまの立場に置き換えてお聞きいただければ幸いです。

まず、みずほ証券の金融経済教育への取り組みをご紹介します。私どもは小学校、中学校、高校、大学、さらには教職員の皆さまや一般企業の従業員の皆さまに対して、幅広く金融経済教育を実施しております。これは資産運用商品の勧誘を目的としたものではなく、金融リテラシーの向上を通じて、企業価値や社員満足度の向上につながる活動であると考えております。本日お伝えしたいテーマは大きく2つです。1つ目は、「資産形成が当たり前の時代になった」ということ。2つ目は、「社会人にとって必要な学びとは何か」ということです。

まず1つ目のテーマです。10年前と比べると、私たちを取り巻く金融環境は大きく変化しています。全国の成人約7,000人を対象とした調査によると、「投資は必要だと思う」と回答した人の割合は、2015年度には23.7%でした。しかし2024年度には42.6%まで増加しています。わずか10年で約2倍になったことになります。また、NISAを知っている人の割合は、2015年度には51.4%でしたが、2024年度には77.9%まで上昇し、現在では約8割の方がNISAを認知している状況となっています。

一方で、金融教育を受けた経験について見ると、2015年度は82.1%の方が「受けたことがない」と回答していました。そして2024年度も83.4%が「受けたことがない」と回答しており、ほとんど改善していません。つまり、この10年間で「投資は必要だ」と考える人は約2倍に増え、NISAの認知度は約8割に達したにもかかわらず、金融教育を受けたことがある人は依然として少数のままなのです。投資や資産形成への関心は高まっている。しかし、それを学ぶ機会は十分に提供されていない。これが現在の日本の状況だと言えるのではないのでしょうか。皆さまの会社においても、「将来のために資産形成について学びたい」「NISAやiDeCoについて知りたい」と考えている社員の方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

続いて、2つ目のテーマです。社会人にとって必要な学びとは何でしょうか。近年、その一つとして金融リテラシーへの関心が高まっています。大学生へのアンケート調査では、企業が金融教育研修を導入している場合、約8割の学生が「その企業への志望度が高まる」と回答しています。また、企業や職場に用意してほしい研修として、金融教育が最も多く支持される結果となっています。

つまり、金融教育は単に従業員の知識向上につながるだけでなく、採用力の強化や離職率の改善といった人材戦略の観点からも有効である可能性があります。さらに、金融

リテラシーが高まることで、従業員の将来への不安が軽減され、会社に対する安心感やエンゲージメントの向上にもつながると考えられています。その結果、企業価値向上にも寄与するのではないのでしょうか。

では、なぜ今、金融教育が必要なのでしょう。その背景として、「預金だけで本当に大丈夫なのか」という点について、3つの観点からお伝えしたいと思います。

1つ目は、資産の増え方の違いです。1999年末時点で、日本の家計金融資産は1,438兆円でした。そのうち現金・預金の割合は54%を占めていました。一方、アメリカの家計金融資産は5,648兆円で、現金・預金の割合はわずか10%でした。そして2025年3月時点では、日本の家計金融資産は2,195兆円となり約1.5倍に増加しました。一方、アメリカは2京608兆円となり、約3.7倍に増加しています。もちろん、経済環境や制度の違いはあります。しかし、長期的な資産形成への取り組みが、資産成長の大きな要因の一つとなっていることは間違いないでしょう。

2つ目は、物価上昇への備えです。長らく日本は「失われた30年」と言われ、物価がほとんど上がらない時代が続きました。しかし足元ではインフレが定着しつつあります。コンビニのおにぎりや日用品の値上がりを実感されている方も多いのではないのでしょうか。物価が上がるということは、裏を返せばお金の価値が下がるということです。仮に物価上昇率が2%で推移した場合、現在の1,000万円の価値は20年後には約673万円相当まで目減りします。預金残高は変わらなくても、買えるものが減ってしまうのです。

3つ目は、リスクへの備えです。資産形成にはリスクが伴います。しかし、リスクをなくすることはできなくても、減らすことはできます。そのために重要なのが、「分散投資」「長期投資」「積立投資」の3つです。投資対象を分散し、長い時間をかけて、定期的に積み立てる。この3つを組み合わせることで、一時的な値動きの影響を抑えながら、安定的な資産形成を目指すことができます。

その実践例として挙げられるのが、私たちの年金資産を運用するGPIFです。GPIFは国内株式、外国株式、国内債券、外国債券におおむね4分の1ずつ資産を配分し、分散・長期運用を実践しています。その結果、2001年度から2024年度までの年率収益率はプラス3.99%となっています。

本日のお話をまとめます。この10年で、人々の資産形成への関心は大きく高まりました。しかし、その一方で金融教育を受ける機会は十分に広がっていません。

また、日本は長年続いたデフレ環境から変化し、インフレが継続する時代へと移行しつつあります。こうした環境だからこそ、金融教育の重要性はかつてなく高まっているのではないのでしょうか。

金融教育は単なる投資の勉強ではありません。従業員の将来への不安を軽減し、社員満足度を高め、人材の確保や定着につながる可能性があります。そして、その積み重ねが企業価値の向上にもつながるのではないかと考えております。

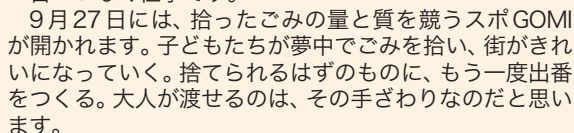
ぜひこの機会に、金融教育を福利厚生や人材育成の一環としてご検討いただければ幸いです。

[illegible]

「JR東日本」の「山手線」が、2011年3月11日の東日本大震災で、大規模な被害を受けた。震災直後、山手線は完全にストップした。しかし、震災から約1週間後、山手線は再開された。この再開を記念して、JR東日本は「山手線再開記念」のイベントを開催した。このイベントでは、山手線沿線の各駅で、乗客が日本国旗を掲げ、山手線再開を祝った。この写真はそのイベントの様子を捉えたものである。背景には、山手線沿線の風景と、遠くには山が見える。乗客たちは、山手線再開を祝うため、日本国旗を掲げ、山手線再開を祝った。この写真は、山手線再開記念のイベントの様子を捉えたものである。

ローカル線はJR発足からの38年間で、乗客が8割減のところもあります。売り上げは鉄道業が約3割、鉄道以外が7割。地域の元気はJR九州グループの元気。その思いで、さまざまな地域の活性化に取り組んでいます。

● 私のひと言 ●



ニコニコBOX報告 本日の投入額 47件 ■報告 高橋淳一 委員

■他に 安藤正明／大槻美恵子／大橋真孝／岡田新也／小原敏／小原孝嗣／管野裕一／五阿弥宏安／児玉健夫／後藤洋伸／古俣 猛／相良元章／佐藤永之／佐藤久典／佐藤英典／鈴木朋恵／高橋淳一／田畑建一／丹治正博／中尾 勉／浪木克文／福地重信／本多修一郎／松原久武／増井裕康／村上守人／村山由美子／森岡幸江／八巻恵一／山野辺宏／横山 淳／渡邊又夫